

深く、温かく、安らぎを感じるその音色

# 今井信子 ヴィオラ・リサイタル

[共演:原麻理子/ヴィオラ・伊藤恵/ピアノ]

Nobuko Imai Viola Recital with Mariko Hara, Kei Itoh



ヴァイオリンやチェロの影に隠れがちなヴィオラを、独立した楽器として世界に広め、ヴィオラ界をリードしている今井信子。楽器ひとつで海外へ飛び出し、ひとりの音楽家、教師、そして母として歩んできたその人生を映し出す、深く、温かく、安らぎを感じるその音色は、多くの人を魅了しています。

難関と言われるミュンヘンとジュネーブの両国際コンクールで最高位となり注目を集め、ベルリン・フィルなど海外の名門オーケストラと共演。ソロ、室内楽と世界をひのき舞台に、常に第一線で活躍。後進の育成にも積極的で、世界中で彼女の弟子が活躍をしています。

今回、彼女の愛弟子であり、現在、ドイツを拠点に活躍している原麻理子(狛江出身)、そして、今井の盟友でもあるピアノの伊藤恵を迎え、ヴィオラの魅力を存分に楽しんでいただきます。

## 曲 目

シューマン:おとぎの絵本 OP.113 [原・伊藤]

シューベルト:アルペジオーネ・ソナタ 短調 D821 [今井・伊藤]

J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲第4番変ホ長調 BWV1010(ヴィオラ版) [今井]

シューマンのピアノ作品 [伊藤]

モシュコフスキ:ヴィオラとピアノのための組曲 OP.71 (小早川麻美子 編) [今井・原・伊藤]

2014. 5. 18 [日] 14:00開演 (13:15 開場)  
狛江 エコルマホール

●728席・小田急線狛江駅北口、徒歩1分 ●小田急線ご利用:新宿から約20分、登戸から約3分  
バスご利用:調布駅から約15分

全席指定 一般:¥3,500 高校生以下:¥500 (当日学生証などご持参下さい) ※団体割引(10枚以上で10%引き)あり、ただし倶楽部Eとの併用はできません。

主催:一般財団法人 狛江市文化振興事業団 <http://ecorma-hall.jp> [@ecormahall](https://twitter.com/ecormahall)

お申込み・お問合せ

エコルマホール 03(3430)4106

一般発売 2.13[木]

倶楽部E発売 2.7[金]

●発売初日のエコルマホール窓口でのチケット販売は9:00から、電話予約は13:00から受付いたします。●曲目等に変更が生じる場合がございますので、あらかじめご了承下さい。  
●未就学児はご遠慮下さい。託児サービス(2歳以上の未就学児ひとりにつき1,000円・定員制・公演の2週間前までに要予約)がございます。詳細はお問合せ下さい。

プレイガイド

チケットぴあ <http://pia.jp/> 0570(02)9999 (Pコード:220-548)  
Odakyu OX 狛江店 1F 宝くじ Shop(窓口販売のみ)

[エコルマホール他公演のご案内] 3.15[土] 15:00 エコルマ・アンサンブルコンサート vol.6 長澤真澄(ハープ)と仲間たち

ECORMA HALL



# Nobuko Imai Viola Recital with Mariko Hara, Kei Itoh



## 今井 信子 (ヴィオラ) Nobuko Imai

東京生まれ。桐朋学園大学卒業、イェール大学、ジュリアード音楽院を経て、1967年ミュンヘン国際コンクール、1968年ジュネーブ国際コンクールにそれぞれ最高位入賞。1970年西ドイツ音楽功労賞を受賞。

1990年ベルリン・フィル定期演奏会、同年小澤征爾サイトウ・キネン・オーケストラのソリストとしてザルツブルク音楽祭に出演など、世界の絵舞台で活躍を続けている。

世界初演も数多く、コリン・デイヴィス指揮ロンドン響とマイケル・ティペットのトリプル・コンチェルト、フランス革命200年祭で、ケント・ナガノ指揮パリ管と武満徹のヴィオラ協奏曲(ア・ストリング・アラウンド・オータム)を世界初演している。室内楽活動も積極的に行っており、これまでにマルタ・アルゲリッチ、アンドラーシュ・シフ、ギドン・クレーメル、ミーシャ・マイスキー、ヨーヨー・マ、五嶋みどりらと共演。マールボロ、ブラード・カザルス、ラヴィニア、ヴェルビエ等世界各地の音楽祭にも頻りに招かれている。

日本では、1987年より東京カザルスホールでの音楽アドバイザーを務めたほか、同ホール専属の(カザルスホール・アンサンブル)、1992年にカザルスホールでスタートし、紀尾井ホールを経て現在は上野学園 石橋メモリアルホールで開催されている(ヴィオラスペース)などの企画・演奏に携わる。1995年から96年にかけて東京、ロンドン、ニューヨークの3都市にわたって

開催された「インターナショナル・ヒンデミット・ヴィオラ・フェスティバル」では音楽監督を務め世界の注目を集めた。2000年には日蘭交流400周年を迎えたオランダと日本において数々のプロジェクトをプロデュース、2007年から2009年までは武生国際音楽祭の音楽アドバイザーを務めた。このほか2009年よりスタートした日本初のヴィオラ単独の国際コンクール、東京国際ヴィオラコンクールではアドバイザーおよび審査委員長を務めるなど、常にヴィオラ界をリードする存在として、めざましい活躍を続けている。2011年4月より大阪ザ・フェニックスホール音楽アドバイザーを務める。

2003年にはミケランジェロ弦楽四重奏団を結成、同年10月にはアムステルダム・コンセルトヘボウにて、12月には日本でデビュー・コンサートを行い、好評を博した。2012/13シーズンにはイギリス・パースにてベートーヴェンの弦楽四重奏曲全曲演奏会を行った。

レコーディングはフィリップス、BIS、ドイツ・グラモフォン等から40枚以上のCDをリリース。著書に「憧れ ヴィオラとともに」(春秋社)がある。1993年エイボン女性芸術賞ならびに文化庁芸術選奨文部大臣賞、1994年京都音楽賞、1995年モービル音楽賞、1996年には毎日芸術賞とサントリー音楽賞を受賞。2003年4月に紫綬褒章を、2013年4月に旭日小綬章を受章。現在はスイスに在住し、ジュネーブ高等音楽院、アムステルダム音楽院、クロンベルク・アカデミー、上野学園大学の各教授を務めている。



## 原 麻理子 (ヴィオラ) Mariko Hara

桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋女子高等学校音楽科を経て2007年同大学を卒業。2005年ヴィオラに転向。2006年より今井信子氏のもとジュネーブ音楽院(現ジュネーブ高等音楽院)ソリストディプロマに学び、首席で卒業。2010年10月よりケルン音楽院に在籍、アントワン・タメスティ氏、ステューベン・イッサーリス氏に師事。現在、ケルンを拠点に欧州、日本国内でソリスト、室内楽奏者、ドイツ・カンマーフィルハーモニーでゲスト奏者として活躍している。

2006年ブラームス国際コンクールヴィオラ部門2位。2008年よりピアニスト有吉亮治とDuo Romandeを結成。ジュピター・カルテット・ジャパンとして5年間活動、その一部はドキュメンタリー『カルテットという名の青春』としてBS朝日で放送され、ギャラクシー賞を受賞。

ヴェルビエ、クフモ、ルツェルン等の音楽祭、またウィグモアホール、在米・在英・在グルジア日本大使公邸、東京オペラシティ B-Cリサイタルなどに出演。また、これまでに日本フィルハーモニー交響楽団、ドゥイスブルグ・フィルハーモニー、グルジア・シンフォニエッタ、チュニジア・シンフォニーオーケストラと共演。

2007年センジャー財団賞受賞。2008年より4年間ロームミュージックファンデーション奨学生。2013年モーツァルト協会のヤング・アーティスト。

2013年ドイツARS ProduktionよりCD『ファンタジー』をリリース。欧州各地のメディア、雑誌、新聞で『日本人離れたスケールの大きな音楽性』『ヴィオラ界の後継者』などと好評を得、また国内ではレコード芸術にて特選盤、優良音質盤の評価を得る。5歳から16歳まで狛江で過ごす。

▶公式サイト <http://marikohara.de/>



## 伊藤 恵 (ピアノ) Kei Itoh

ザルツブルグ・モーツァルト音楽大学、ハノーファー音楽大学において名教師ハンス・ライグラー氏に師事。1983年第32回ミュンヘン国際音楽コンクールピアノ部門で日本人として初の優勝。サヴァリッシュ指揮バイエルン国立管と共演し、ミュンヘンでデビュー。その後もミュンヘン・シンフォニカ、フランクフルト放送響、ベルン響、チェコ・フィルの定期公演などに出演。日本ではN響との協演をはじめ、各オーケストラとの共演、リサイタル、室内楽、放送と活躍を続けている。

録音はシューマン・ピアノ曲全曲録音「シューマニアナ(1~13)」他、最新

盤として「シューベルトピアノ作品集5」(フォンテック)。2007年秋には、シューマン・ピアノ曲全曲録音完成記念コンサートが行われた。また、サイトウ・キネン・フェスティバル松本はじめ武生音楽祭、軽井沢音楽祭、東京・春・音楽祭、ラ・フォルジュルネ音楽祭などに参加。2008年からの新たな8年シリーズではシューベルトを中心としたリサイタルを開催。

1993年日本シヨパン協会賞、1994年横浜市文化奨励賞受賞。現在、東京芸術大学教授、桐朋学園大学特任教授。エコルマホールでは2006年「モーツァルト生誕250年をたたえている」シリーズにおいて、リサイタルを行っている。

▶公式サイト <http://kei-itoh.com/>

### コンサートによせて

5歳から16歳までを狛江で過ごし、まさに故郷といえるこの街で、音楽人生の恩師である今井信子氏、そして憧れのピアニスト伊藤恵氏と共演できること、夢かと思うほど、とても幸せに思います。

あきれほどのわんぱく少女で、狛江一小ではサッカークラブに入り、狛江一中では陸上部に所属し、100メートル走では都大会に出場、一年で一番楽しみな日は運動会でした。

そんなお転婆娘が、今はヨーロッパ中をヴィオラとスーツケースを両手に、駆け回っています。全力疾走したい、子

供のころから変わらない性格のようです。音楽家というイメージも強いかと思いますが、子供時代に普通に外であそび、多摩川などの自然に触れ、その中で得たインスピレーションは今でも大きな糧となっています。故郷とよべる街、人がいることは、心の支えとなっています。

これからもまた狛江で演奏し続けられることを願い、この演奏会が素敵な時間となりますように、私自身とても楽しみにしています！

原 麻理子